

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和4年度第2回河内長野市行財政評価委員会
2 開催日時	令和5年3月14日(火) 午前10時から午前11時30分
3 開催場所	河内長野市役所3階301会議室
4 会議の概要	(1) 令和3年度地方創生推進交付金事業の評価について ・「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業 ・地域活性・交流ハブ拠点化推進事業 (2) 令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について ・サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業 ・林道整備事業 (3) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	なし
7 問い合わせ先	(担当課名) 総合政策部 政策企画課 (内線341)
8 その他	

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

## 令和4年度第2回行財政評価委員会・会議録

**日時** 令和5年3月14日（火）午前10時～午前11時30分  
**場所** 市役所3階 301会議室  
**出席者** 河内長野市行財政評価委員会 5名  
事務局 宮阪総合政策部長、小池政策企画課長、及び政策企画課職員  
事業担当課 政策企画課、自治協働課、産業観光課、農林課  
**傍聴者** なし

### 案件1. 令和3年度地方創生推進交付金事業の評価について

#### 事業：「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

#### ○要素事業1 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

#### <担当課から事業内容・評価の概要を説明>

#### <主な質問、意見>

委員：広い公園やサッカースタジアムが出来るのは、河内長野市全体で考えてもプラスになり、南花台以外でも、清見台や美加の台、その他の地区の人も利用できるのでは、非常にいい事業だと思う。1点質問で、自動運転のルートがAルート、Bルートの2ルートとなっているが、このルート以外の人はどうするのか？

担当課：自動運転とは別に、呼び出すと迎えに来る送迎タイプのオンデマンド運行をしており、南花台地区全域で約300ヶ所の乗降ポイントを設け、自宅の近くの乗降ポイントからコノミヤまでといった送迎をしている。自動運転は、令和3年度から定時定ルートで運行開始している。

委員：南花台にすごい公園ができるのだと思った。車では行きやすいが、子育て世代が電車で行くとなると、交通手段があまりないのではないかと感じる。事業自体は、コロナ禍でもラジオ体操など健康面でたくさん情報発信が出来ていてよいと思う。

委員：取り組みに熱量を感じる。クルクルや公園の整備、コノミヤテラスなど、住民が参加できる拠点の整備を入れていて、しっかりとやっているという印象を持った。  
コノミヤテラスの利用において、運営研究会がゼロになっている。コノミヤテラスは様々な住民の方が活用していることは分かったが、住民が主体となって現状を踏まえて2、3年後の活動を検討することが非常に重要と思うが、実態はどうなっているのか。  
横展開を考えているところは素晴らしいと思う。クルクルも下里地区で実施しており、住民参加の拠点づくりでは、ゆいテラスを開設している。そこで、コノミヤテラスでの経験や教訓は、ゆいテラスにどのように生かされているのか。

担当課：運営研究会の実態について、活動回数等に記載はないが、運営研究会等や他の取り組みを含めたもう一つ上の段階で、市や事業者なども一緒に入った総合研究会を設置し、情報共有をや活動の状況について、月 1 回会議を行っていた。なお、運営研究会は新しい事業を検討するという主旨があり、コロナ禍で地域活動自体を広げられない中で新しい取り組みを始めるのは出来ないということでストップしている。

ゆいテラスの取り組みについて、イズミヤの 4 階にあり地域まちづくり支援拠点のコーディネータ業務を社会福祉協議会に委託している。社会福祉協議会が主体となり、参入団体連携会議を設け、市、社会福祉協議会、歯科医師会、薬剤師会、青年会議所、関西大学をはじめ各大学、H2O といった様々な団体で取り組みを検討し、さらに分科会も開いている。また、地域の参加がキーになるが、市や社会福祉協議会が地元からの様々なご意見や知見を聞き取り、参入団体連携会議の中で共有し、地域への提案を積極的にしていきながら、地域で使いやすい活動を展開できる場として、引き続き取り組んでいきたい。

委員：横展開をしていくうえでは、コノミヤテラスの総合研究会と、ゆいテラスの社会福祉協議会などの関連団体との横の交流が重要だと思う。

委員：評価シートについて、公表するものであれば、横展開という言葉は通じにくいのではないかと感じる。南花台で得た知識、知見を他にも応用して活動を広げることが大切なことであると考え、市内部だけで通じる言葉ではなく外に向けて発信する時には、もっと分かりやすく表現することが必要と思う。

委員長：横展開という表現は、他の模範となる、他に波及する、他地域へのモデルとなるというような意味だと思うが、もっと分かりやすい表現にしてはどうか。

**<委員会の評価>**（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）  
「妥当」

## **事業：地域活性・交流ハブ拠点化推進事業**

### **○要素事業 1 観光誘客促進事業**

#### **<担当課から事業内容・評価の概要を説明>**

#### **<主な質問、意見>**

委員：河内長野に多くの観光客が来るようになってきていることの一つの要因が、くろまろの郷の成功だと思う。先週、富田林の寺内町に行ってすごく感動した。河内長野にはいろんな文化資産があるので、PR 材料にすればいいと思うが、まだ利用できていない。余談だが、楠木正成の銅像は、観心寺と湊川神社、皇居の三か所にある。皇居に外国人の観光客が来たら、武将のそのままの姿だとすごく感動されるそうなので、そういうことも PR 材料にすればよいと思う。

委員：くろまろの郷は、土日では車で来られる方がたくさんいて駐車もしにくいぐらいの状態になっており、周知出来ていると思う。ただ、通過点になっているのはもったいないと思うので、宿泊施設や河内長野駅前の商店街等を活用して、通過点ではなくそこで滞留や宿泊をしてもらえれば、駅前からならバスでいろんなところに行ける。大阪市内や他府県の友達からは泊まることがないという話を聞く。難波の駅で南天苑のきれいな広告が出ているとちょっと泊まってみたいという気持ちにもなるのでいいと思う。

委員：この数年、河内長野市はブランド化されてきた気がしているので、しっかりとこのまま進んでいっていただきたい。1点気になるのは、観光ボランティアの多言語対応について、すぐに出来ることではないので、体制構築をサポートしていくことを中長期的に考えていく必要があるんじゃないかと思う。

委員：指標が道の駅に関するものしかない。広告の効果は客観的に測れないので仕方ないと思うが、すごく効果があったというには躊躇してしまった。写真も綺麗で私もまちで見ることもあるので、積み重ねていけば認知度も上がるのでいいという気はしている。道の駅は、車を持っている人のための施設で、車を使わない人にとって行きにくいので、広告にある2件のお寺を一気に行くのに、ハイキングとかバスとかをうまくアピールすると、より幅が広がるのではないかな。

委員長：河内長野の観光都市としての可能性は無限にある。すごく可能性があるのに、地元の人、河内長野の人でも可能性を信じられていない。もっと自信を持ってもらうために働きかけるのが市役所の仕事で、ようやく関心を持って進み出したばかりなので、満足してもらったら非常に困る。マイカーでないと楽しめないという弱点があるので、周遊とか回遊性を開発して、こんなところにこんなおいしいお菓子屋さんがあるとか、こんなところにすてきな喫茶店があるとか、一緒にマップを作るような住民運動や商店街運動を起こすとかすればいいと思う。スマホの時代だから、ピンポイントで発信してもらえるお客さんを大事にするというのが大事で、来てくれているお客さんばかり考えずに、もっとそういったツールを使って発信すればいい。アイテムがいっぱいあるのに河内長野市は使えていないと思う。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

## ○要素事業2 木のある暮らし推進事業

＜担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

＜主な質問、意見＞

委員：木根館はすごくいい施設だが、どこにあるか知らない人が多いと思う。くろまろの郷や花の文化園に、サンプルを置いて施設へ誘導するなど、すでにやっているかもしれないが、連携やPRが出来ればよいと思う。

委員：河内長野で家を建てたい、リフォームしたいという人に、補助金の制度があることが浸透していないのではないかと。市内の工務店と連携して、もっと推進して欲しい。建てる方は安く建てたいがいいものを使いたいという気持ちがあると思うので、建築してくれる人からアドバイスをもらえたら、もっと使ってみようという気になるのではないかと。

委員：経済的に回していくこともとても大事だが、河内長野市は山がちな土地で間伐が進んでいかないと大変な問題につながるのと、防災減災の観点からも大変素晴らしい取り組みだと思う。ただ、河内材の利用が44 m<sup>3</sup>増加したということ、どのように評価していいかが難しく、どのくらいの経済的なインパクトがあるのかがうまく評価できなかった。補助金はあるもののあまり利益がでていないのであれば、さらに利益を出していくために補助金の認知度をもう少し増やしていくなどしないと、経済的にサステナブルに続いていかないとと思う。

委員：木材の利用を促進することはいろんな意味で必要だと思う。市が補助金を出すので仕方ないかもしれないが、河内長野市内での建設に限定するのではなく、他のところでも使ってもらえる方が促進できる。44 m<sup>3</sup>をどう評価するのはよく分からなかったと、市民向けに説明するときは、分かりやすい書き方、表現をした方がよいと思う。

河内長野駅に河内材を使っているが、河内長野で見ても地場産業という感じになる。例えば、南海と連携して難波駅とかで出来れば、広告効果があるんじゃないかと思う。

委員長：河内長野の材木は、もっとマーケティングをしないといけない。認知度調査、商品価値などの商品情報を把握して、外に広げていけるかどうか、比較優位性はどこにあるのかを考えないといけない。比較優位性に自信がないから市内消費に向いてしまう。市内の人だけに地元材使えというのは難しく、むしろ近隣で河内長野の材木を使ってもらう方が販促効果はある。市域外に対して売るという優位性をどう開発するかと作業を支援していくのが仕事で、もっと進めて欲しいと思う。

河内材はブランド性が出ているので、宣伝を積極的に取り組んで欲しい。経費を惜しまずに行くと、地元の商売人も、頑張ってくれているという気になる。市役所の仕事として林業だけでなく、商業、マーケティングの観点も必要と思う。

**<委員会の評価>**（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「概ね妥当」

## **案件2. 令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について**

**事業：河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業**

**○要素事業1 サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業**

**<担当部局から評価結果の概要を説明>**

## ＜主な質問、意見＞

委員：河内長野には、数多くサッカーチームがあり、子どもたちは一生懸命サッカーをやっているの  
で、女子サッカーチームとの交流や地元へ PR をして、サポーターやお客さんを増やすことが必  
要と思う。南花台だけじゃなく河内長野全体で盛り上がっているというふうに、サッカースタ  
ジアムの整備に関するアンケートを他の地区でもやってみるとか、みんな来てもらって一緒に  
サッカーチームを盛り上げましょうと PR してもらって、整備する場所がたまたま南花台だった  
という発想にしてほしいと思う。

委員：女子サッカーチームとの交流はまだ先のことと思うが、河内長野市全体でチームを応援するとい  
うことにしないと、他の地区は関係ないという形が生まれやすい。行政からアイデアを出  
してもらって、それぞれの地区でも話し合いを持ってもらったら、もっと活性化すると思うし、  
女子サッカーチームからももっと地域に出てきてくれるという場面を作ってもらったら、身近  
に感じて皆が応援しようというようになると思う。

委員：企業版ふるさと納税の活用や UR 集約型団地再生事業について、非常によいと思う。市の実質  
的な負担がなくハードを整備できるのは、資金確保のイノベーションの一つだと思う。UR の集  
約型ということは、建っていた団地を、除却して、更地にするところまで UR が UR の資金で  
して、そのあとに作るところに、企業版ふるさと納税を活用するということか。  
住民にどのぐらいのお金がかかっていて、どのような財源になっているかというようなことを、  
きちんと説明した上で、住民の方たちの盛り上げをやっていく必要があると思うので、資金獲  
得のイノベーションと同時に、住民参加とか住民理解を得る上でのイノベーションも目指して  
もらいたい。

担当課：建物を除却して更地にするまでは UR でやって、更地になった土地を市が購入し、パンフレッ  
トにあるようなサッカースタジアムを含む大規模な公園を整備することとしている。そのサッ  
カースタジアム部分については、国費と企業版ふるさと納税を充てることとしており、公園部  
分は、国費や市債を発行して残りは一般財源となる。

委員：市の実質負担がないぐらい集まっているのは評価できる。公共施設を整備するのに、みんな  
で作ったというのはよいと思うので、どのように作ったのかという周知をした方がいいと思う。

## ＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

## ○要素事業 2 林道整備事業

### ＜担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

## ＜主な質問、意見＞

委員：シティマラソンも多くの参加者がいるので、整備された林道を走るのは難しいのかもしれないが、有効活用ができればいいと思う。

委員：ちょっとずつでも、ふるさと納税によって整備される距離が伸びるのはいいと思う。

委員：林道整備をこういう形でやること自体はいいが、いろんな林道がある中でこの林道を選ばれた理由はあるのか。また、住民の方々も喜んでいるのか。

担当課：地区の方々も喜んでいる。林道の延長は約 7.4 kmあって、林道を使って山から間伐材を切り出して森林整備に活用されている。また、岩湧山の萱場は、地区の所有地で文化財の森として文化庁から指定されている森となっており、年 1 回萱を刈って文化財の屋根に活用されている。萱場へも直接車で行けるので、非常に活用がされている。さらに、金剛葛城ダイヤモンドトレールの尾根筋に接しているということで、もし登山者に緊急事態があれば、車で登っていけるということもあり、この林道を選んだ。

委員：数字だけだと 10 万円だけと思ったが、企業版ふるさと納税として多くの企業が手を挙げるタイプではなく、非常に愛着を持ってやっていただいているので金額の問題ではないと思う。今後は、直接的に林業に関わっていないが、河内長野の林業を応援しようとする企業もあると思うので、他業種にもアピールして、1 社でも 2 社でも増えていけばいいと思う。

委員長：10 万円という金額について、どのように評価しているのか。

担当課：企業版ふるさと納税として 10 万ぐらい寄附したいという申し出があったことからスタートした話なので、金額の大小ということの評価は特にはない。このような事例があったので、他の企業にどうですかと展開することの可能性はあると思うので、今後改善していくところと思う。

**<委員会の評価>**（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

### 案件 3. その他

---

事務局：令和 5 年度の外部評価対象施策について、これまで評価対象施策は、毎年度 3 施策程度を重点施策に選定し特に重点的に評価を行っている。分野としては総務、福祉教育、都市環境経済という順番で実施しており、令和 4 年度は総務分野を対象に評価をした。令和 5 年度評価は、順番では福祉教育分野になり、評価対象重点施策案として、施策 6「地域福祉の推進」、施策 10「健康づくりの推進と医療体制の充実」、施策 14「青少年の健全育成の推進」の 3 施策を評価対象としたい。

委員長：ご意見・ご質問はあるか。

各委員：(特になし)

委員長：次年度の予定は、事務局説明の通り進めることでよいか。

各委員：異議なし

事務局：評価いただいた事業は、委員のご意見をもとに、今後の施策の展開、事業の改善に努める。また、評価結果は、事務局で取りまとめて、後日、市ホームページで公表を予定している。その際、評価結果の取りまとめ、公表方法は事務局に一任いただいてよろしいか。

委員長：事務局に一任する。



## 令和3年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果について

### 1. 外部評価の目的

---

市で実施した内部評価の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、必要に応じて総合戦略の見直しや次年度の取組み内容への反映を行う。

### 2. 評価対象及び実施方法

---

令和3年度に実施した地方創生推進交付金事業「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業」及び「地域活性・交流ハブ拠点化事業」について、市で実施した内部評価に対し、河内長野市行財政評価委員会において外部評価を行った。

### 3. 評価方法

---

市内部で行った評価資料に基づき、事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点で検証を行い、「**妥当**」、「**概ね妥当**」、「**要検討**」のいずれかに分類する。

### 4. 評価結果

---

別紙「令和3年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果」のとおり

## 令和3年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果

### ■事業の概要

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業
事業の目標	<p>人口減少・少子高齢化が急激に進む開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置する南花台を、周辺開発団地の生活を補完できるまちとして「丘の生活拠点」に位置付け、平成26年度より、「地域住民が住み慣れた場所で多世代と交流しながら、生きがいを持ち、元気に暮らし続けることができるまちづくり」をコンセプトに『咲く南花台プロジェクト』を推進している。</p> <p>その間、地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心に、買物応援や生活応援をはじめ、健康づくり、子育て支援、情報発信、南花台事業者の会の立ち上げなど、地域住民主体による地域課題解決につながる取り組みを着実に実施してきた。</p> <p>こうした取り組みを通じて、現在では多くの地域住民が多様な形でまちづくりに参画し、関西大学に加え他大学の参画も進むとともに、地域のスーパーコノミヤとの連携も年を追うごとに深まる中で、公民学によるお互いの信頼関係が高まり、地域の合意形成が図りやすくなるとともに、まちづくりの機運が非常に高まっている。</p> <p>「咲く南花台プロジェクト」をさらに推進し、自動運転による移動サービスを始め、新たな技術の導入による生活利便性の向上を図りながら、地域の公園やUR団地集約用地等の既存ストックを有効活用し、地域の魅力創出・活性化を図り、「暮らし続けられるまち」を形成しながら、高齢化に伴い自治会や地区福祉委員会など地域活動の担い手不足が課題となっているなかで、新たな担い手を発掘し、地域住民と事業者が連携した持続可能なまちづくりのモデルを構築する。</p>
全体の概要	<p>地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の一環として、自動運転等未来技術を活用した地域の生活に機能する移動支援の構築を図る。また、UR集約型団地再生事業に係る多世代が交流できる公園（サッカースタジアムを含む）を整備することにより、地域住民の憩いの場や子どもの遊び場の創出、スポーツを通じた魅力あるまちづくりのモデルを構築する。あわせて、これらの事業について他の地域へ横展開を図り、河内長野市全体の地域活性化を生活利便性の向上につなげる。</p>
要素事業	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業
令和3年度実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案事業総合企画調整</li> <li>・「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営</li> <li>・地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進</li> <li>・南花台モビリティ「クルクル」の取り組み推進（有償化を含む）</li> <li>・「咲く南花台プロジェクト横展開」としてイズミヤ河内長野店における地域活動拠点の運営開始</li> <li>・南花台モビリティ「クルクル」自動運転実証事業運行開始</li> <li>・UR集約事業におけるサッカーチームと連携したまちづくりの推進</li> <li>・「コノテラ通信」発行など地域による情報発信</li> </ul>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<p>令和元年度に開始した南花台モビリティ「クルクル」について、令和3年度において、感染症対策を徹底した上で、10月より令和2年度に運営体制を構築した自動運転運行を開始、12月には有償運行の開始を実施するなど、地域住民主体による自動運転技術を用いた移動支援の実証事業を推進するとともに、コロナ禍でも利用者を延ばし、地域内移動支援としての効果を発揮できた。</p> <p>また、UR集約跡地においてサッカースタジアムを含む公園整備を検討する中、地域住民向けのサッカーチームと連携したまちづくりに関する説明会を実施するなど、地域内の合意形成を図っている。</p> <p>さらに、これまでの取り組みの広がりを受けて、交通不便地での同様の電動カートを用いた実証実験を開始し、河内長野駅前のイズミヤ4階における「イズミヤゆいテラス」の運営開始など、事業の横展開も図ることができた。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい取り組みが多く、その挑戦性、先進性は充分評価に値する。この取り組みを他の地域への刺激、起爆材料とするように期待する。</li> <li>・他市と比較して、まち・ひと・しごと創生総合戦略について、しっかり取り組んでいることが理解できる。特に南花台における自動運転運行の実験と、その横展開なども大変しっかりと取り組んでいることがアピールできていると見られる。ただし、コノミヤテラスの経験を踏まえて横展開する場合は、より丁寧な取り組みの設計が必要ではないかと思料する。</li> <li>・市民に分かりやすい用語で書くこと効果的と思う。</li> <li>・市内他地域から公園への移動手段が不明であるが、「丘の生活拠点」として、住民が活発に活動できる拠点となっている横展開も進んでおり評価できる。</li> <li>・他地区からも利用が増えればよいと思う。</li> </ul>
評価内訳	
①妥当 4 ②概ね妥当 1 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

## 令和3年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果

### ■事業の概要

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業
事業の目標	<p>大阪南東部に位置する河内長野市は、都市部に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれ、多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに推進してきたイメージ戦略が一定の広がりを見せ、近年の観光入込客数の増加につながっている。</p> <p>また、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女人高野～女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」と「葛城修験～里人とともに守り伝える修験道はじまりの地～」の3つの「日本遺産」に認定され、それらを観光プロモーション等に活用している。</p> <p>さらに、コロナ禍の影響により、人々の働き方や居住地選択に変化が生じており、大阪市中心部から車で30分程度の距離でありながら、豊かな自然を有する本市への関心が高まっている。</p> <p>本市の観光ハブ拠点として位置付けている道の駅「奥河内くろまるの郷」の周辺エリアには、JA大阪南農産物直売所「あすかてくるで」、林業総合センター「木根館」、府立花の文化園が併設され、エリア全体で観光誘客に取り組んでいる。</p> <p>これらのことから、本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまるの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざす。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざす。</p>
全体の概要	<p>農業、林業において、地域資源を活かしたブランド化を確立し、販路拡大につなげるとともに、磨きあげた資源を有機的に結び付け、さらなる市内循環を生み出すことで、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげる。</p> <p>子育て世代が住みよいまちとするために、本市最大の集客施設である道の駅の「子育て応援」機能強化を行い、子育て世代に対応した地域活性・交流拠点整備を進める。(令和4・5年度事業)</p> <p>また、子育て世代を中心とした定住人口の確保を目的に、本市の良好なイメージの拡大を図るため、観光客(訪日外国人を含む)に直接届く観光プロモーションに取り組む。</p> <p>さらに、ポストコロナ期においても、子育て世代を中心とした市民や観光客が安心して集客と消費を高めることができるよう、観光MaaSを活用した事業を実施する。(令和5年度事業)</p> <p>これらの取り組みを、広く市民にも発信し、市民の地域資源への理解向上を図ることにより、市へのまちへの愛着や誇りを育み、定住促進につなげる。</p>
要素事業①	観光誘客促進事業
令和3年度実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市外からの観光誘客促進PR事業</li> <li>市内外の子育て世代に対し本市の良好なイメージの拡大を図り、交流人口と定住人口の増加を推進することを目的に、本市の観光資源・地域資源を主に市外の観光施設を利用する観光客に対し直接PRするため、大阪市内の宿泊施設にて配布・設置される雑誌への広告掲載を実施した。</li> <li>掲載媒体：ホテル設置型情報誌「大阪観光コンシェルジュ」Vol.6</li> </ul>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初計画において出展を予定していたPRイベントが延期となったことから、コロナ禍においても確実に実施が可能であり、本市の観光資源・地域資源を広くPRすることが出来る広告掲載に変更し実施した。</p> <p>大阪市内の宿泊施設利用者にターゲットを絞り、潜在的に観光に興味関心を持つ層が読む媒体への広告掲載を行ったことで、コロナ禍において対面でのイベント実施等が制限される中、日本遺産を中心とした本市の観光資源に対する認知獲得と来訪動機の醸成に向け、効率的かつ効果的に取り組むことが出来た。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当 ※評価区分は、合議の結果、「妥当」となった。	<p>・河内長野市の観光都市としての可能性はもつとある。来訪者だけに焦点を当てるのではなく、全国発信するツールをもっと開発されることを望む。</p> <p>・ここ数年で河内長野は奥河内の魅力をアピール出来ており、一定のブランド化が出来てきていると思う。今後は、観光ボランティアなど、住民参加の視点をもって、中長期的に取り組んでいただきたい。</p> <p>・努力は感じられるが、公共交通でも周遊できるとより広がると思う。</p> <p>・道の駅については活用できているが、車を利用しない観光についても考える必要があると思う。</p> <p>・くろまるを中心にPR活動を行ってほしい。</p>
評価内訳	
①妥当 2 ②概ね妥当 3 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業②	木のある暮らし推進事業
令和3年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおさか河内材活用事業補助金</li> </ul> 地元木材である「おおさか河内材」のブランド化を確立し、林産品の利用促進につなげることで、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、民間事業者等によるおおさか河内材を活用した建物の新築や改修のうち、おおさか河内材活用のモデル事例となり、その魅力を市内外に広く発信することができる取組みを選定し、補助金により支援することで、市として戦略的におおさか河内材の魅力を発信し、利用拡大につなげていく。 補助金額：おおさか河内材使用量（m <sup>3</sup> ）×60千円～100千円（使用量による）

## ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	「おおさか河内材」の活用支援を行ったことで、令和2年度に対して40m <sup>3</sup> を超える材の使用量の確保ができた。 補助金事業により、「おおさか河内材」のPRに繋がり、材に関する問い合わせも増加した。 本事業により林業振興を図ることができたとともに、市内での木質化事例が増え、森林資源の有効活用を促すことができた。

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

## ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
②概ね妥当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方向性は正しいが、マーケティング（市場調査、販売促進等）に力不足を感じる。</li> <li>・河内材活用支援事業補助金については、認知度が低いように思われ、住民や事業主への認知を図る必要がある。</li> <li>・市外でもPRすると思う。</li> <li>・補助金制度について認知度が低いと感じる。</li> <li>・木根館をPRをくろまろで行ってほしい。</li> </ul>
評価内訳	
①妥当 2 ②概ね妥当 3 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

# 令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業評価・外部評価結果について

## 1. 外部評価の目的

---

市で実施した内部評価の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、必要に応じて総合戦略の見直しや次年度の取組み内容への反映を行う。

## 2. 評価対象及び実施方法

---

令和3年度に実施した「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」について、市で実施した内部評価に対し、河内長野市行財政評価委員会において外部評価を行った。

## 3. 評価方法

---

市内部で行った評価資料に基づき、事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点で検証を行い、「**妥当**」、「**概ね妥当**」、「**要検討**」のいずれかに分類する。

## 4. 評価結果

---

別紙「令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業評価・外部評価結果」のとおり

## 令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業評価・外部評価結果

### ■事業の概要

事業名称	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業
事業の目標・概要	<p>企業版ふるさと納税を活用した事業を実施することにより、河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進を図る。</p> <p>1. サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業  <b>【総合戦略該当箇所および記載内容】</b>                      基本目標4：時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。                      施策5：地域で支えあえる環境づくり                      主な取り組み内容：南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業</p> <p>2. 林道整備事業  <b>【総合戦略該当箇所および記載内容】</b>                      基本目標1：安定した雇用を創出する。                      施策2：農林業の振興                      主な取り組み内容：林道の基盤整備</p>
要素事業①	サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業
令和3年度実施事業内容	<p>(1) 事業概要                      市内南花台地区では、少子高齢化の進む開発団地の再生モデル構築として、「南花台スマートエイジング・シティ 団地再生モデル事業」に取り組んでいる。                      この一環として、同地区内でUR都市機構が進める集約型団地再生事業により生まれる跡地に女子サッカーチームの本拠地を誘致し、チームと連携することによる地域の活性化を図る。</p> <p>(2) 令和3年度実施事項                      UR団地集約事業跡地一体整備に係る構想構想の策定準備として、サッカースタジアムの基本構想案の策定のため、他の交付金も活用しつつ、UR団地集約事業跡地に関する住民向け説明会やワークショップ、地域住民向けのアンケートを実施。                      それらの地域のアンケート結果を踏まえ、スタジアムの基本構想や配置検討案、大阪府等関係各所との協議を実施。                      ※ただし、寄附金の充当事業であるサッカースタジアム建設については、設計の開始が令和5年度であるため、企業版ふるさと納税の充当も令和5年度より実施予定である。                      令和3年度受領の寄附金は、市の基金（河内長野市ふるさとづくり基金）へ全額積み立てを行った。</p> <p>(3) 企業版ふるさと納税受領額                      1億3,880千円（19社）</p>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<p>企業と連携することにより、市の実質負担なくハード整備が実施可能となる。                      企業版ふるさと納税を活用することで、多くの企業と接点生まれ、今後のプロジェクトにおける参画が期待できる。                      企業版ふるさと納税を活用した取り組みとして注目度が高く、事業自体の周知に貢献している。</p> <p>※令和5年度までは、寄附金の事業費への充当（サッカースタジアム建設）は行われないことから、左記評価は、サッカースタジアム建設についてではなく、「企業版ふるさと納税の活用」についての効果を記載しています。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<p>・引き続き拡大のために努力してほしい。                      ・企業版ふるさと納税の活用、URの集約型団地再生事業の活用は、資金獲得上のイノベーションであるが、その事業への住民理解の獲得においてもイノベーションを期待したい。                      ・地域住民だけでなく市民全員で応援が出来るようなアイデアが必要だと思う。                      ・サッカーチームと市民との交流が必要と思う。</p>
評価内訳	
①妥当 3 ②概ね妥当 2 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業②	林道整備事業
令和3年度 実施事業内容	<p>(1) 事業概要 市管理の基幹林道であり、地区林業の基幹であるとともに、緊急輸送路としての役割も担っている林道千石谷線外1線の整備を実施した。</p> <p>(2) 背景 寄附を申し出た事業者（以下、「同社」）より、森林の保全、特に林道等に関することへの活用意向が聞かれた。 地方版総合戦略の基本目標1「安定した雇用を創出する」の施策2「農林業の振興」において、「林道の基盤」が規定されていることから、寄附金を充当する要素事業の内容として林道整備事業を選定し、事業費の一部に充当した。</p> <p>(3) 企業版ふるさと納税受領額 10万円（1社）</p>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<p>当初予算上の千石谷舗装予定延長は70mであったところ、寄附金の活用により2.5mの量的充実が図れた。</p> <p>寄附事業者は、林業振興に意識の高い事業者であり、同社と協議し、思いを反映した寄附金の活用を行ったことで、同社との継続的な連携にも繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度も、同社より同様の趣旨・金額で寄附を受け入れ</li> <li>・附属機関「かわちながの森林プラン推進協議会」に同社代表が委員に就任（令和4年度より）</li> <li>・同社が策定している森林経営計画をさらに拡大した。</li> </ul>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
<p>①妥当 ※評価区分は、合議の結果、「妥当」となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業版ふるさと納税の呼びかけ対象が林業関係のみというのが淋しい。</li> <li>・他の事業や他の企業にもPRすると思う。</li> <li>・林道の有効活用をしてほしい。</li> </ul>
<p>評価内訳</p>	
<p>①妥当 1 ②概ね妥当 3 ③要検討 1</p>	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

# 令和4年度 第2回河内長野市行財政評価委員会 会議次第

日 時：令和5年3月14日（火）

10時から

場 所：市役所301会議室

## 1. 開 会

## 2. 案 件

（1）令和3年度地方創生推進交付金事業の評価について

- ・「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業
- ・地域活性・交流ハブ拠点化推進事業

（2）令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について

- ・サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業
- ・林道整備事業

（3）その他

## 3. 閉 会



# 令和3年度地方創生推進交付金事業の評価について

## 1. 河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

少子・高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への一極集中を是正し、活力ある社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されたことを受けて、本市では、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、本市人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び地域の実情に応じた5か年の施策の方向を提示し、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立と、その好循環を支える「まち」の活性化を図る「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」）を策定しています。

総合戦略の取り組みのうち、令和3年度は、2事業について国より地方創生推進交付金の交付を受け、事業を実施しています。

## 2. 事業の概要

### (1) 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

#### ①背景

本市は、昭和50年前後に開発団地が数多く整備され、住宅購入適齢期の住民が同時期に転入したことから、特に急激な高齢化の進行が見られ地域の活力の低下が現れ、地域の拠点となるスーパーの撤退が相次ぐなど、生活利便性の低下が顕著に表れています。そのため、生活の利便性を補完できる生活拠点とそれらの地域間の連携を創出し、それぞれの特色を生かしたまちづくりの実現が急務となっています。第5次総合計画では、特に開発団地が連なる市南部地域の玄関口に位置し、一定の生活利便施設が整う南花台を「丘の生活拠点」として位置付け、開発団地の再生モデルの構築と周辺地域の生活拠点化を図るため、「多世代の住民が、生きがいを持ちながら、元気に住み続けることができるまちづくりを目指した『咲く南花台プロジェクト』」を実践しています。

#### ②実施内容

令和3年度は、引き続き「咲く南花台プロジェクト」を推進しながら、自動運転による移動サービスについては、10月に地域住民主体による自動運転運行の実証事業を開始し、12月からは有償運行を開始するなど、事業を推進するとともに、UR集約型団地再生事業による跡地の活用として、子どもが安心できる遊び場や多世代交流機能を備えた丘の生活拠点に相応しい公園整備の検討を行いました。また、南花台における商業店舗と連携したまちづくりをモデルとして、イズミヤ河内長野店4階において河内長野市地域まちづくり支援拠点を令和3年4月2日より運営を開始しました。

### (2) 地域活性・交流ハブ拠点化推進事業

#### ①背景

本市では、人口減少、少子高齢化が伸展しており、子育て世代を中心とした定住人口の確保が最大の課題となっています。また、転出が増加しており、要因として小売り事業者をはじめとした事業所数の減少など市内での就業場所の減少があげられています。市内産業及びまちの

魅力の減退を回避するため、市域の7割を森林が占める豊かな自然、3つの「日本遺産」などの歴史・文化など、市への良好なイメージの定着を進め、観光産業の創出等を通じ定住人口と交流人口の増加を図るため、観光地域づくりの推進に取り組んでいます。その結果、観光入込客数は年々増加に転じ、観光によるまちづくりは進んできていますが、今後は、地域内産業の活性化や雇用の創出につなげるとともに、市民の愛着の醸成、また、子育て世代を中心とした転入促進につなげていく必要があります。

## ②実施内容

本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまるの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざします。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざします。

令和3年度は、コロナ禍により計画通り事業を進めることが非常に困難でしたが、本市の観光資源・地域資源をPRするための雑誌への広告掲載を行い、市内外からの観光誘客を促進しました。また、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、おおさか河内材の利用を促進するための補助金制度を整備し、利用拡大につなげました。

## 3. 評価の概要

今回の行財政評価委員会では、総合戦略の主な取り組みとして、令和3年度に地方創生推進交付金の交付を受けた事業について、市で実施した内部評価に対し、外部の視点で評価していただきます。

評価対象事業	評価資料（送付資料）
要素事業	
「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業	○総合シート
（要素事業1） 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業	○評価シート ○（参考資料）令和3年度地方創生推進交付金の実績概要
地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	○総合シート
（要素事業1） 観光誘客促進事業	○評価シート ○（参考資料）日本遺産のまちPR広告
（要素事業2） 木のある暮らし推進事業	○評価シート ○（参考資料1）おおさか河内材活用支援補助チラシ ○（参考資料2）おおさか河内材利用実績 ○（参考資料3）おおさか河内材活用事例

## 4. 評価の方法

「総合シート」・「評価シート」及び添付資料により、事業の内容を確認いただき、「総合シート」に記載の事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために、評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点から、「評価シート」の下記部分について評価をお願いします。

【委員会評価】①～③を選択してください。

【評価等に対する意見】事業に関するご意見等を記入してください。

【「評価シート」・委員会評価 欄】

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

### <参考：評価シートについて>

#### ■総合シート

交付金事業ごとに、事業全体の目標や数値目標（KPI）等について記載しています。

事業名称等	交付金事業の名称、事業全体の目標及び概要を記載しています。
数値目標及び実績	事業全体の数値目標（KPI）と、その実績を記載しています。また、指標の状況及び今後の事業全体の考え方について記載しています。

#### ■評価シート

事業を構成する要素事業ごとに、具体的な事業の内容や行政の内部評価、今後の課題等について記載しています。

実施事業	評価年度に実施した具体的な取り組みの内容について記載しています。また、その成果について、できる限り具体的な数値で表せるよう、参考指標を示しています。
担当者評価	評価年度に実施した取り組みが、交付金事業の目標及びKPIを達成するために効果があったかとの視点より事業担当部署が評価を行い、その評価内容についてコメントを記載しています。
改善	今後の課題や取り組みの方向性について記載しています。
委員会評価	本委員会にて評価いただきたい箇所です。 取組事業が事業の目標・KPI達成するために「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」より選択してください。

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 総合シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業(事業期間:令和2年度～令和4年度)
事業の目標	<p>人口減少・少子高齢化が急激に進む開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置する南花台を、周辺開発団地の生活を補完できるまちとして「丘の生活拠点」に位置付け、平成26年度より、「地域住民が住み慣れた場所で多世代と交流しながら、生きがいを持ち、元気に暮らし続けることができるまちづくり」をコンセプトに『咲っく南花台プロジェクト』を推進している。</p> <p>その間、地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心に、買物応援や生活応援をはじめ、健康づくり、子育て支援、情報発信、南花台事業者の会の立ち上げなど、地域住民主体による地域課題解決につながる取組みを着実に実施してきた。こうした取組みを通じて、現在では多くの地域住民が多様な形でまちづくりに参画し、関西大学に加え他大学の参画も進むとともに、地域のスーパーコノミヤとの連携も年を追うごとに深まる中で、公民学によるお互いの信頼関係が高まり、地域の合意形成が図りやすくなるとともに、まちづくりの機運が非常に高まっている。</p> <p>「咲っく南花台プロジェクト」をさらに推進し、自動運転による移動サービスを始め、新たな技術の導入による生活利便性の向上を図りながら、地域の公園やUR団地集約用地等の既存ストックを有効活用し、地域の魅力創出・活性化を図り、「暮らし続けられるまち」を形成しながら、高齢化に伴い自治会や地区福祉委員会など地域活動の担い手不足が課題となっているなかで、新たな担い手を発掘し、地域住民と事業者が連携した持続可能なまちづくりのモデルを構築する。</p>
全体の概要	<p>地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の一環として、自動運転等未来技術を活用した地域の生活に機能する移動支援の構築を図る。また、UR集約型団地再生事業に係る多世代が交流できる公園(サッカースタジアムを含む)を整備することにより、地域住民の憩いの場や子どもの遊び場の創出、スポーツを通じた魅力あるまちづくりのモデルを構築する。あわせて、これらの事業について他の地域へ横展開を図り、河内長野市全体の地域活性化を生活利便性の向上につなげる。</p>

【数値目標及び実績】

項目		事業開始前	令和2年度 (増加分)	令和3年度 (増加分)	令和4年度 (増加分)	累計
南花台モビリティ(自動運転)の運行日一日当たり乗客数【人/日】	目標	0	20	30	30	80
	実績		0	3	30	33
南花台モビリティ(自動運転)の運営スタッフ数【人】	目標	0	10	10	20	40
	実績		3	12	20	35
南花台地区における年少人口(0～14歳)【人】	目標	500	10	10	15	35
	実績		1	-1	15	15
横展開地域における活動参加者数【人】	目標	0	50	100	200	350
	実績		0	72	200	272
令和3年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		<p>・自動運転技術を活用した移動サービスの乗客数を把握することにより、外出する機会の創出や、地域活性化につながっているかについて、事業の直接的な効果を計測する。令和3年度は、10月より運行を開始したが、新型コロナウイルス感染症による事業開始の遅れと利用控えにより、利用者増加施策が困難であった。</p> <p>・地域課題の解決には地域住民が主体となり取り組むことが必要であり、取組みに参加する運営スタッフ数を把握することにより、地域の移動サービスを支える取組みへの参画状況が確認できることから、事業の直接的な効果を計測できる。南花台モビリティ「クルクル」の運行は令和元年度より実施しているが、未来技術による地域課題の解決を主題としているため、自動運転に関わるスタッフのみを指標としている。令和3年度は自動運転運行を開始したことにより、単年度での目標達成となっている。令和2年度からの累計としては、コロナ禍での事業開始の遅れにより未達成となっている。</p> <p>・高齢化が進行するまちの再生という課題を解決するために、子育て世帯に魅力あるまちとなっているか、多世代が暮らしやすいまちであるかどうかについて、年少人口を把握することにより、事業の効果を計測できる。令和3年度においては、河内長野市全体では年少人口が減少している中、目標値は達成できていないものの、令和2年度から継続して維持できている事は評価できると考えている。</p> <p>・南花台地域におけるまちづくりについては、当初の想定を上回る成果が生まれており、他地域における横展開事業の必要性がより高まっていることから、当初申請時において設定していたKPI、「南花台地区における総人口」を、「咲っく南花台プロジェクト」の横展開地域において、新たに創出した活動の参加者を把握することにより、横展開事業及び地域活動拠点整備の直接的な効果を計測するため、「横展開地域における活動参加者数」に変更している。令和3年度において、新型コロナウイルス感染症により、大規模な地域活動への参加周知が困難であり、小規模な活動から開始したため、目標値は達成できていないものの、横展開事業の開始を進めることができた。</p>				

※令和4年度は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業	
要素事業①	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業	担当課 総合政策部政策企画課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和3年度実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案事業総合企画調整</li> <li>・「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営</li> <li>・地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進</li> <li>・南花台モビリティ「クルクル」の取り組み推進(有償化を含む)</li> <li>・「咲く南花台プロジェクト横展開」としてイズミヤ河内長野店における地域活動拠点の運営開始</li> <li>・南花台モビリティ「クルクル」自動運転実証事業運行開始</li> <li>・UR集約事業におけるサッカーチームと連携したまちづくりの推進</li> <li>・「コノテラ通信」発行など地域による情報発信</li> </ul>	[参考指標] ●「コノミヤテラス」来訪者数: 5,570人/年 ●「コノミヤテラス」運営による収益: 116,430円 ●南花台モビリティ「クルクル」乗客数: 7651人 ●南花台モビリティ「クルクル」スタッフ数: 62人 ●地域活動拠点「イズミヤゆいテラス」の運営開始	20,000
		(合計)	20,000

	【令和3年度評価】	【令和3年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	令和元年度に開始した南花台モビリティ「クルクル」について、令和3年度において、感染症対策を徹底した上で、10月より令和2年度に運営体制を構築した自動運転運行を開始、12月には有償運行の開始を実施するなど、地域住民主体による自動運転技術を用いた移動支援の実証事業を推進するとともに、コロナ禍でも利用者を延ばし、地域内移動支援としての効果を発揮できた。 また、UR集約跡地においてサッカースタジアムを含む公園整備を検討する中、地域住民向けのサッカーチームと連携したまちづくりに関する説明会を実施するなど、地域内の合意形成を図っている。 さらに、これまでの取り組みの広がりを受けて、交通不便地での同様の電動カートを用いた実証実験を開始し、河内長野駅前前のイズミヤ4階における「イズミヤゆいテラス」の運営開始など、事業の横展開も図ることができた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南花台モビリティ「クルクル」の取組みと、生活支援や健康づくり、子育て支援などの取組みとの連携を図り、地域生活における移動の課題解決と、生活の質の向上、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。</li> <li>・自動運転技術による「安全性の向上」、「担い手の負担軽減」による新たな担い手の確保につなげていく。</li> <li>・UR集約跡地の活用に向けた調整、サッカースタジアムを含む公園の集約・再編に向けた検討等を行う。</li> <li>・南花台で創出されたまちづくり活動のモデルを市内他地域へ横展開し、市全体の活性化につなげていくことで持続可能なまちの構築を図る。</li> <li>・「イズミヤゆいテラス」において、より積極的に地域との連携を図り、生活の質の向上や、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。</li> </ul>

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 総合シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業(事業期間:令和3年度～令和5年度)
事業の目標	<p>●大阪南東部に位置する河内長野市は、都市部に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれ、多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに推進してきたイメージ戦略が一定の広がりを見せ、近年の観光入込客数の増加につながっている。</p> <p>●また、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女人高野～女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」と「葛城修験～里人とともに守り伝える修験道はじまりの地～」の3つの「日本遺産」に認定され、それらを観光プロモーション等に活用している。</p> <p>●さらに、コロナ禍の影響により、人々の働き方や居住地選択に変化が生じており、大阪市中心部から電車で30分程度の距離でありながら、豊かな自然を有する本市への関心が高まっている。</p> <p>●本市の観光ハブ拠点として位置付けている道の駅「奥河内くろまろの郷」の周辺エリアには、JA大阪南農産物直売所「あすかてくるで」、林業総合センター「木根館」、府立花の文化園が併設され、エリア全体で観光誘客に取り組んでいる。</p> <p>●これらのことから、本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまろの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざす。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざす。</p>
全体の概要	<p>●農業、林業において、地域資源を活かしたブランド化を確立し、販路拡大につなげるとともに、磨きあげた資源を有機的に結び付け、さらなる市内循環を生み出すことで、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげる。</p> <p>●子育て世代が住みよいまちとするために、本市最大の集客施設である道の駅の「子育て応援」機能強化を行い、子育て世代に対応した地域活性・交流拠点整備を進める。(令和4・5年度事業)</p> <p>また、子育て世代を中心とした定住人口の確保を目的に、本市の良好なイメージの拡大を図るため、観光客(訪日外国人を含む)に直接届く観光プロモーションに取り組む。</p> <p>さらに、ポストコロナ期においても、子育て世代を中心とした市民や観光客が安心して集客と消費を高めることができるよう、観光MaaSを活用した事業を実施する。(令和5年度事業)</p> <p>●これらの取組みを、広く市民にも発信し、市民の地域資源への理解向上を図ることにより、市へのまちへの愛着や誇りを育み、定住促進につなげる。</p>

【数値目標及び実績】

項目		事業開始前	令和3年度 (増加分)	令和4年度 (増加分)	令和5年度 (増加分)	累計
道の駅奥河内くろまろの郷年間売上高【億円】①	目標	8.54	0.42	0.46	0.48	1.36
	実績		0.05	0.46	0.48	0.99
おおさか河内材の木材供給量(原木材積)【m <sup>3</sup> 】②	目標	2,400.00	40.00	10.00	10.00	60.00
	実績		-240.00	10.00	10.00	-220.00
「子育てのしやすさ」に関する市民満足度【%】③	目標	19.10	0.40	0.50	0.51	1.41
	実績		-0.60	0.50	0.51	0.41
社会動態の転入者/転出者の率【%】④	目標	78.00	4.00	4.00	4.05	12.05
	実績		0.04	4.00	4.05	8.09
令和3年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		<p>■KPI①の令和3年度増加分について未達成となっている。令和3年度においては、新型コロナウイルスの影響から、当初の実施計画にて予定していたイベント出展等の事業を実施できず、道の駅を含む本市の観光情報の発信機会が減少した。代替事業として情報誌への広告掲載を実施したが、コロナ禍の影響もあり、集客力の高いイベント等の情報を掲載することが出来ず、効果的な観光誘客に繋がらなかったと考えられる。あわせて、道の駅の営業形態が、感染症対策のため縮小されていたことにより、コロナ禍以前に想定していた売上増加に繋がらず、前年度からの増加額に影響したと考えられる。</p> <p>■KPI③についても、令和3年度増加分については未達成となっているが、これはコロナ禍において子育て世代を含む市民を対象としたイベント等が実施されなかったことや、市内公共施設等の利用が制限されたことなどもあり、子育て世代の本市での生活に対する満足度の低下につながり、KPI③の低下につながったと考えられる。</p> <p>■KPI④については、増加傾向にあるものの、令和3年度増加分について未達成となっていることから、現在の住宅施策や、交流人口増加に向けた本市の魅力発信が、定住や転入の動機づけには効果的に結びついていないと考えられる。</p> <p>⇒以上のことから、KPI①③④の達成に向け、今後においては、特に子育て世代を中心とした交流人口及び定住人口の増加に向け、本市の魅力を効果的に発信する施策の検討が必要であると考えられる。</p> <p>■KPI②については、未達となっているが、一方で、おおさか河内材の使用量(製材品等)は、令和2年度から40m<sup>3</sup>以上増加していることが判明している。このことから、木材搬出量(原木)増加を促すため、木材の搬出に係る支援も新たに市独自で開始し、本交付金事業として実施する「木のある暮らし推進事業」による取り組みと併せて、川上・川下の両方向からKPI②の増加を促進していく。</p>				

※令和4年度以降は見込み

# 河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業①	観光誘客促進事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和3年度実施事業	・市外からの観光誘客促進PR事業 市内外の子育て世代に対し本市の良好なイメージの拡大を図り、交流人口と定住人口の増加を推進することを目的に、本市の観光資源・地域資源を主に市外の観光施設を利用する観光客に対し直接PRするため、大阪市内の宿泊施設にて配布・設置される雑誌への広告掲載を実施した。 掲載媒体：ホテル設置型情報誌「大阪観光コンシェルジュ」Vol.6	[参考指標] ●設置施設数：約437施設 ●令和3年度観光入込客数：985,600人(R2年度比88,400人増)	300
		(合計)	300

	【令和3年度評価】	【令和3年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初計画において出展を予定していたPRイベントが延期となったことから、コロナ禍においても確実に実施が可能であり、本市の観光資源・地域資源を広くPRすることが出来る広告掲載に変更し実施した。 ・大阪市内の宿泊施設利用者にターゲットを絞り、潜在的に観光に興味関心を持つ層が読む媒体への広告掲載を行ったことで、コロナ禍において対面でのイベント実施等が制限される中、日本遺産を中心とした本市の観光資源に対する認知獲得と来訪動機の醸成に向け、効果的かつ効果的に取り組むことが出来た。

評価：交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・新型コロナウイルス感染症の影響も減少し、観光需要が回復しつつあるため、今後においては、更なる交流人口及び定住人口の増加に向け、本市の魅力効果を効果的に発信する取組みが必要である。 ・本市の観光コンテンツの認知獲得に係る情報発信に加え、それらを組み合わせ、市内の周遊と観光消費の促進に向けた取組みを実施していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業②	木のある暮らし推進事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和3年度実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおさか河内材活用事業補助金 地元木材である「おおさか河内材」のブランド化を確立し、林産品の利用促進につなげることで、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、民間事業者等によるおおさか河内材を活用した建物の新築や改修のうち、おおさか河内材活用のモデル事例となり、その魅力を市内外に広く発信することができる取組みを選定し、補助金により支援することで、市として戦略的におおさか河内材の魅力を発信し、利用拡大につなげていく。</li> <li>補助金額: おおさか河内材使用量(m<sup>3</sup>) × 60千円～100千円(使用量による)</li> </ul>	[参考指標] ●本補助金活用によるおおさか河内材使用量 ・令和3年度: 41.3m <sup>3</sup> ●おおさか河内材使用量(本補助金活用以外の使用含む) ・令和2年度: 37.84m <sup>3</sup> ・令和3年度: 82.52m <sup>3</sup> ⇒増加量: 44.68m <sup>3</sup> ※本市で把握できている分のみ	3,590
		(合計)	3,590

	【令和3年度評価】	【令和3年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおさか河内材」の活用支援を行ったことで、令和2年度に対して40m<sup>3</sup>を超える材の使用量の確保ができた。</li> <li>・補助金事業により、「おおさか河内材」のPRに繋がり、材に関する問い合わせも増加した。</li> <li>・本事業により林業振興を図ることができたとともに、市内での木質化事例が増え、森林資源の有効活用を促すことができた。</li> </ul>

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおさか河内材」の活用支援及び取組周知・情報発信を引き続き実施していく。</li> <li>・木材搬出量(原木)増加を促すため、木材の搬出に係る支援も新たに市独自で開始し、今回の「おおさか河内材」活用支援の取り組みと併せて、川上(森林側)・川下(使う側)の両方向から促進していく。</li> </ul>

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	



## 令和3年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について

### 1. 制度概要（詳細：別紙1参照）

少子・高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への一極集中を是正し、活力ある社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されたことを受けて、本市では、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、本市人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び地域の実情に応じた5か年の施策の方向を提示し、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立と、その好循環を支える「まち」の活性化を図る「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」）を策定しています。

この総合戦略に基づき、地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について法人関係税を税額控除できる制度が『地方創生応援税制（以下、「企業版ふるさと納税」）』であり、この制度を活用して取り組む事業が「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」となります。

### 2. 本市における令和3年度の運用について

令和2年度税制改正により、令和3年度より制度が変更となりました。

これにより、下記のような運用が可能となりました。

変更前	変更後
各要素事業実施後（事業費確定後）にし か寄附金を受領することができない	各要素事業実施前（事業費確定前）でも、 寄附金を受領することが可能
企業版ふるさと納税を充当する各要素事 業について事前に国の認定を受けること が必要	地方版総合戦略の推進に資する事業で あれば、各要素事業実施後の国への報告 で可（年度終了毎）

これを受けて、本市ではまち・ひと・しごと創生寄附活用事業について、下記の2通りの方法で要素事業を実施することとしました。

A：市として戦略的に寄附を募集し、活用を図る事業

B：事業者の意向を最大限尊重しながら充当事業を検討し、寄附金の活用を図る事業

### 3. 令和3年度 まち・ひと・しごと創生寄附活用事業について

（要素事業1）サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業（上記Aに該当）

（要素事業2）林道整備事業（上記Bに該当）

### 4. 評価の概要

今回の行財政評価委員会では、令和3年度に実施したまち・ひと・しごと創生寄附

活用事業について、市で実施した内部評価に対し、外部の視点で評価していただきます。

評価対象事業	評価資料
要素事業	
まち・ひと・しごと創生寄附活用事業	○ 総合シート
(要素事業1) サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業	○ 評価シート
(要素事業2) 林道整備事業	○ 評価シート ○ 林道整備事業 説明資料

## 5. 評価の方法

「総合シート」・「評価シート」及び添付資料により、事業内容を確認いただき、「総合シート」に記載の事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために、評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点から、「評価シート」の下記部分について評価をお願いします。

### ■留意事項

#### ※要素事業1について

令和5年度までは、寄附金の事業費への充当（サッカースタジアム建設）は行われないことから、令和3年度の行財政評価委員会においてはサッカースタジアム建設についてではなく、「企業版ふるさと納税の活用」についての効果について、評価をお願い致します。

#### ※要素事業2について

林道整備事業は、林業基盤整備として恒常的に実施するインフラ整備事業であり、施工自体の評価等については技術的部分が占める割合が高く専門領域となり本委員会での評価にそぐわないことから、「企業版ふるさと納税の活用」についての効果を記載しています。

【委員会評価】①～③を選択してください。

【評価等に対する意見】事業に関するご意見等を記入してください。

【「評価シート」・委員会評価欄】

委員会評価	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
	取組事業が評価交付金事業の 目標・KPI達成するために  ①妥当である  ②概ね妥当である  ③検討を要する	

## <参考：評価シートについて>

### ■総合シート

事業全体の目標や数値目標（KPI）等について記載しています。

事業名称等	事業の名称、目標及び概要を記載しています。
数値目標及び実績	事業全体の数値目標（KPI）と、その実績を記載しています。 また、指標の状況及び今後の事業全体の考え方について記載しています。

### ■評価シート

事業を構成する要素事業ごとに、具体的な事業の内容や行政の内部評価、今後の課題等について記載しています。

実施事業	評価年度に実施した具体的な取り組みの内容について記載しています。また、その成果について、できる限り具体的な数値で表せるよう、参考指標を示しています。
担当者評価	評価年度に実施した取り組みが、事業の目標及びKPIを達成するために効果があったかとの視点より事業担当部署が評価を行い、その評価内容についてコメントを記載しています。
改善	今後の課題や取り組みの方向性について記載しています。
委員会評価	本委員会にて評価いただきたい箇所です。 取組事業が事業の目標・KPI達成するために「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」より選択してください。

## 河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 総合シート

<b>事業名称</b>	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業
<b>事業の目標・概要</b>	<p>企業版ふるさと納税を活用した事業を実施することにより、河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進を図る。</p> <p>1. サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業  <b>【総合戦略該当箇所および記載内容】</b>                  基本目標4: 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。                  施策5: 地域で支えあえる環境づくり                  主な取り組み内容: 南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業</p> <p>2. 林道整備事業  <b>【総合戦略該当箇所および記載内容】</b>                  基本目標1: 安定した雇用を創出する。                  施策2: 農林業の振興                  主な取り組み内容: 林道の基盤整備</p>

### 【数値目標及び実績】

項目		事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①関連 市に愛着と誇りを感じ ている市民の割合	目標	—	51	52	53
	実績	38	36	52	53
①関連 市に住み続けたいと感 じている市民の割合	目標	—	56	57	58
	実績	41	42	57	58
①関連 社会動態の転入者／ 転出者の率	目標	—	90	92	94
	実績	81	88	92	94
②関連 林業従事者数	目標	—	48	48	48
	実績	29	29	48	48
<b>令和3年度の指標の状況及び事業への反映の考え方</b>		<p>「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえて作成する計画(地域再生計画)に位置付ける必要があります。</p> <p>本事業は、同戦略内の事業として位置付けており、KPIも当該項目内の数値目標を準用しています。</p> <p>ただし、当該数値目標は総合戦略の目標として非常に大きな視点から設定されているほか、社会情勢等によって大きく変動する指標でもあるため、評価シートでは当該数値目標に加え、参考指標を設定し、評価を実施しています。</p>			

※令和4年度以降は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 評価シート

事業名称	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業	
要素事業①	サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業	担当課 総合政策部政策企画課

	実施内容	参考指標	事業費(千円)
令和3年度実施事業	<p>(1)事業概要 市内南花台地区では、少子高齢化の進む開発団地の再生モデル構築として、「南花台スマートエイジング・シティ 団地再生モデル事業」に取り組んでいる。 この一環として、同地区内でUR都市機構が進める集約型団地再生事業により生まれる跡地に女子サッカーチームの本拠地を誘致し、チームと連携することによる地域の活性化を図る。</p> <p>(2)令和3年度実施事項 UR団地集約事業跡地一体整備に係る構想構想の策定準備として、サッカースタジアムの基本構想案の策定のため、他の交付金も活用しつつ、UR団地集約事業跡地に関する住民向け説明会やワークショップ、地域住民向けのアンケートを実施。それらの地域のアンケート結果を踏まえ、スタジアムの基本構想や配置検討案、大阪府等関係各所との協議を実施。</p> <p>※ただし、寄附金の充当事業であるサッカースタジアム建設については、設計の開始が令和5年度であるため、企業版ふるさと納税の充当も令和5年度より実施予定である。 令和3年度受領の寄附金は、市の基金(河内長野市ふるさとづくり基金)へ全額積み立てを行った。</p> <p>(3)企業版ふるさと納税受領額 1億3,880千円(19社)</p>	<p>○サッカースタジアム整備と地域内公園のあり方に関するアンケート調査 ・アンケート実施数:1,000件 ・回答:459件</p> <p>○サッカーチームと連携したまちづくりに関する説明会 ・令和3年7月25日実施 ・参加者数:90名</p>	0
	(合計)	0	

担当者評価	【令和3年度評価】	【令和3年度の評価内容】
	②相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と連携することにより、市の実質負担なくハード整備が実施可能となる。</li> <li>・企業版ふるさと納税を活用することで、多くの企業と接点生まれ、今後のプロジェクトにおける参画が期待できる。</li> <li>・企業版ふるさと納税を活用した取り組みとして注目度が高く、事業自体の周知に貢献している。</li> </ul> <p>※令和5年度までは、寄附金の事業費への充当(サッカースタジアム建設)は行われなことから、左記評価は、サッカースタジアム建設についてではなく、「企業版ふるさと納税の活用」についての効果を記載しています。</p>

評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③「効果があった」、「④効果がなかった」

改善	【今後の課題・取組みなど】
	<p>寄附金充当業務としては令和4年度以降の実施となる。 事業の効果を最大限に発揮できるよう、専門家はもちろん地域住民の意見も取り入れながら、単なる施設整備にとどまらない、新たな地域交流が生まれる場となるよう進めていく。 また、寄附企業との協議も行い、企業との関係性が寄附のみにとどまらないよう、公民連携に繋げていく。</p>

委員会評価	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
	<p>取組事業が事業の目標・KPI達成するために</p> <p>①妥当である</p> <p>②概ね妥当である</p> <p>③検討を要する</p>	

## 河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 評価シート

<b>事業名称</b>	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業	
<b>要素事業②</b>	林道整備事業	<b>担当課</b> 環境経済部農林課

	実施内容	参考指標	事業費(千円)
<b>令和3年度実施事業</b>	<p>(1)事業概要 市管理の基幹林道であり、地区林業の基幹であるとともに、緊急輸送路としての役割も担っている林道千石谷線外1線の整備を実施した。</p> <p>(2)背景 ・寄附を申し出た事業者(以下、「同社」)より、森林の保全、特に林道等に関することへの活用意向が聞かれた。 ・地方版総合戦略の基本目標1「安定した雇用を創出する」の施策2「農林業の振興」において、「林道の基盤」が規定されていることから、寄附金を充当する要素事業の内容として林道整備事業を選定し、事業費の一部に充当した。</p> <p>(3)企業版ふるさと納税受領額 10万円(1社)</p>	令和3年度実施事項 ・施工延長 L=340m ・アスファルト舗装工 A=609.9㎡ ・コンクリート路面工 A=495.7㎡	8,238
	(合計)		8,238

	【令和3年度評価】	【令和3年度の評価内容】
<b>担当者評価</b>	②相当程度効果があった	○当初予算上の千石谷舗装予定延長は70mであったところ、寄附金の活用により2.5mの量的充実が図れた。 ○寄附事業者は、林業振興に意識の高い事業者であり、同社と協議し、思いを反映した寄附金の活用を行ったことで、同社との継続的な連携にも繋がっている ・令和4年度も、同社より同様の趣旨・金額で寄附を受け入れ ・附属機関「かわちながの森林プラン推進協議会」に同社代表が委員に就任(令和4年度より) ・同社が策定している森林経営計画をさらに拡大した。

評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
<b>改善</b>	企業版ふるさと納税がさらに広がるよう、本実績を市内外にアピールする必要がある。さらに、企業との関係性が寄附のみにとどまらないよう、公民連携に繋げていく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
<b>委員会評価</b>	取組事業が事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

## 令和5年度の外部評価対象施策について

### 1. 外部評価の目的

市で行った行政評価（内部評価）の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、第5次総合計画を効果的・効率的に推進し、めざすまちの将来都市像「人・自然・歴史・文化輝く ふれあいと創造のまち 河内長野」の実現を図ります。

### 2. これまでの評価対象施策

第5次総合計画の全38施策を対象に、毎年評価を実施し、そのうち3施策程度を「重点施策」に選定して、特に重点的に評価を行っています。

実施年度	対象年度	総合計画の全38施策		
		総務	福祉・教育	都市・環境・経済
H29	H28	<b>重点施策</b> 施策36 協働 施策37 行財運営 施策38 財政運営 ※上記以外は書面評価	全て書面で評価	全て書面で評価
H30	H29	全て書面で評価	<b>重点施策</b> 施策7 高齢者福祉 施策9 社会保障 施策12 子育て支援 ※上記以外は書面評価	全て書面で評価
R元	H30	全て書面で評価	全て書面で評価	<b>重点施策</b> 施策22 循環型社会 施策26 住宅環境 施策33 観光振興 ※上記以外は書面評価
R2	R元	新型コロナウイルスの影響により書面会議		
R3	R2	新型コロナウイルスの影響により書面会議		
R4	R3	<b>重点施策</b> 施策1 危機管理 施策4 交通安全 施策35 都市ブランド ※上記以外は書面評価	全て書面で評価	全て書面で評価

### 3. 令和5年度行政評価（対象：令和4年度）の重点施策（案）

令和5年度は、「福祉・教育」分野（別紙「第5次総合計画後期基本計画 福祉・教育分野 施策一覧」参照）の中から、下記の3施策を選定することとします。

また、論点を明確にするため、評価対象重点施策を推進する事業のうち、重点的・戦略的に取り組んでいる事業を抜粋し、外部の目線から検証いただくこととします。

#### 【令和5年度（対象：令和4年度）評価対象重点施策（案）】

施策名称	施策の展開 (主に評価対象とする取り組み)
施策6 地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域福祉を推進する人材の育成</li><li>・地域における支えあいの仕組みづくり</li><li>・地域福祉活動団体等への支援と連携強化</li><li>・包括的支援体制の充実</li></ul>
施策10 健康づくりの推進と医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・生涯にわたる健康生活を支援する体制づくり</li><li>・生涯現役で生活できる地域社会づくり</li><li>・安心できる医療体制の充実</li></ul>
施策14 青少年の健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・青少年の健全な成長を支援する体制づくり</li><li>・子どもたちの放課後の育ちの保障</li></ul>



【別紙】第5次総合計画後期基本計画 福祉・教育分野 施策一覧

政策	施策		10年後のめざす姿	住みよさ指標				主な取り組み		取り組み内容		
	No	名称		まちづくり指標(案)	基準値	中間値		目標値	No		名称	
					実績(H27)	目標(R2)	実績(R1)	目標(R7)				
まちづくりの方向												
基本目標1.「安全・安心・支えあい」の暮らしやすいまち												
みんなで共に支えあう福祉の充実と仕組みづくり	6	地域福祉の推進	少子・高齢化などにより、多様化する福祉ニーズに対応し、地域課題を市民自らが発見し、課題の解決に向けて、様々な主体が協力し、みんなで支えあうまちとなっています。	地域福祉活動への延べ参加者数	65,135人	67,000人	69,830人	70,000人	1	地域福祉を推進する人材の育成	継: ボランティア活動等への参加促進 継: 民生委員・児童委員の活動支援 継: 市民後見人の養成と活動支援 継: 地域福祉を担う人材の育成	
				(参考)「地域の支え合い」に関する市民満足度	17.7%	21.0%	19.9%	25.0%	2	地域における支えあいの仕組みづくり	充: 地域による支えあい・見守り支援活動の充実 充: コミュニティソーシャルワーカー(CSW)による相談体制の充実 充: CSWと介護・医療・福祉など関係機関との連携体制の充実	
										3	地域福祉活動団体等への支援と連携強化	継: 社会福祉協議会等、地域福祉団体の支援体制の強化 継: 行政と地域福祉活動団体、及び団体同士の連携の促進
										4	包括的支援体制の充実	充: 各種相談事業の充実 新: 多機関協働の仕組みづくり
	7	高齢者福祉の充実	高齢者が心身ともに健康でいきいきと暮らすことができる環境づくりが進み、地域の一員として活躍し、健康寿命が延伸するとともに、認知症や介護が必要な状況になっても住み慣れた地域で安心して生活ができています。	要介護認定を受けていない高齢者の割合	79.0%	74.4%	80.8%	77.8%	1	地域における包括的なケア体制の整備	継: 地域包括支援センターの機能強化 継: 在宅医療・介護連携の推進 充: 認知症の予防及び早期発見など認知症施策の推進 継: 高齢者の権利擁護や虐待防止の推進 継: 介護保険サービスの提供と適正な介護保険運営 継: 介護を担う人材の確保、育成	
				認知症サポーター数	5,102人	8,100人	10,909人	12,000人	2	介護予防と生活支援の充実	充: 介護予防事業の推進による健康づくりの支援 充: 介護予防・日常生活支援総合事業の実施と生活支援体制の整備 継: 老人医療費助成事業を重度障がい者医療費助成事業等と整理統合して実施	
				60歳以上の高齢者の内、シルバー人材センター会員登録者の占める割合	2.1%	3.0%	1.8%	5.0%	3	高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進	継: 交流機会の創出のための居場所づくり 継: 老人クラブ活動の活性化 継: シルバー人材センターの活性化 継: ボランティア・NPO活動等への参加促進	
				(参考)「高齢者にとっての暮らしやすさ」に関する市民満足度	13.3%	15.0%	12.7%	20.0%				
	8	障がい者福祉の充実	障がいに対する理解がより一層深まり、社会全体で障がい者を支えたとともに、障がい者の自立と社会参加が進み、誰もが地域でいきいきと暮らしています。	訪問系サービスの利用時間数(年間)	83,010時間	95,000時間	99,218時間	107,000時間	1	障がい者への理解の促進	継: 障がいに対する理解の促進 継: 障がい者への虐待防止に向けた啓発	
				(参考)「障がい者にとっての暮らしやすさ」に関する市民満足度	6.2%	8.7%	5.7%	11.2%	2	自立と社会参加の促進	継: コミュニケーション支援事業の推進 継: 就労支援事業所、ハローワークなど関係機関との連携による支援 継: 障がい者の地域移行にかかる支援の推進 継: 就労への移行、職業訓練等にかかる支援	
									3	地域での暮らしを支える地域生活支援拠点等にかかる基盤整備	充: 障がい福祉サービスや地域生活支援事業の充実 充: 相談支援体制の充実 継: 関係機関の連携による支援体制の構築等 継: 障がい者地域自立支援協議会との連携等の推進 継: 重度障がい者医療費助成事業の実施	
	9	社会保障制度の適正な運営	社会保障制度に対する理解が浸透し、すべての市民が健康で安定した生活ができるよう、適正な制度の運営が行われています。	国民健康保険料の収納率	93.7%	94.0%	96.3%	94.2%	1	国民健康保険の健全な運営	継: 国民健康保険制度の啓発及び医療費適正化対策の推進 充: 生活習慣病予防(特定健康診査・特定保健指導等の保健事業)に係る事業の推進 継: 国民健康保険料の収納率の維持・向上	
				ジェネリック医薬品の普及率	49.1%	80.0%	77.8%	80.0%	2	後期高齢者医療制度の適切かつ円滑な運営	継: 後期高齢者医療制度の普及・啓発 継: 後期高齢者医療保険料の収納率の維持・向上	
				生活保護現業員の充足率	-	-	100.0%	100.0%	3	国民年金制度の適正な運営	継: 国民年金制度の普及啓発、加入促進 継: 日本年金機構との連携による年金相談の実施 継: 国民年金保険料免除申請等の適正な審査	
				(参考)「社会保障制度」に関する市民満足度	7.7%	8.9%	7.4%	10.2%	4	生活困窮者対策の推進	継: 生活保護制度の適正な運営 継: 生活保護世帯に対する自立支援の推進 継: 生活困窮者に対する自立支援の推進	
	誰もが元気で暮らせる健康づくり	10	健康づくりの推進と医療体制の充実	市民一人ひとりが健康に関する正しい知識と生活習慣を身につけ、市民が自発的に健康づくりに取り組むことで健康寿命が延伸しています。また、市民の誰もが適切な医療を受ける体制が整っています。	がん検診受診率	15.5%	21.0%	21.0%	23.0%	1	生涯にわたる健康生活を支援する体制づくり	継: こころと身体の健康づくりの推進 継: 特定健康診査やがん検診など各種健診の受診促進 継: 各種予防接種の推進 充: 各種団体等との連携による食育の推進
					特定健康診査受診率	40.5%	60.0%	39.6%	60.0%	2	生涯現役で生活できる地域社会づくり	充: 地域やボランティア団体との協働による健康づくりの推進 継: 健康支援センターによる健康づくりの推進 充: 市民主体の健康づくりの促進
					(参考)「健康づくりを進める環境」に関する市民満足度	15.0%	20.0%	16.0%	20.0%	3	安心できる医療体制の充実	継: かかりつけ医を持つことの普及・啓発 充: 医師会や関係機関などとの連携による地域医療体制及び感染症予防対策等の充実 継: 救急医療体制、休日・夜間医療の充実

【別紙】第5次総合計画後期基本計画 福祉・教育分野 施策一覧

政策	施策		10年後のめざす姿	住みよさ指標				主な取り組み		取り組み内容		
	No	名称		まちづくり指標(案)	基準値	中間値		目標値	No		名称	
					実績(H27)	目標(R2)	実績(R1)	目標(R7)				
基本目標2.「育み・学び・思いやり」の質の高いまち												
子どもが健やかに育つ環境の整備	11	児童福祉の推進	子育て家庭が孤立することなく、子どもの権利が保障されることで、子どもがいきいきと育つ環境づくりが進んでいます。	要対協等研修会参加者数	-	-	212人	300人	1	子どもの権利擁護の推進	継: 児童虐待防止に向けた啓発 充: 児童虐待の早期発見、早期対応体制の強化 充: 見守りが必要な子どもとその家庭への支援体制の整備 継: 関係機関の連携による支援 充: 子どもの権利を守るための相談体制強化	
				児童扶養手当支給停止者の割合(一部及び全部停止)	47.8%	50.0%	46.3%	52.0%	2	障がい児への支援の充実	充: 障がい児に対する障がい福祉サービスの充実 継: 発達療育にかかる支援事業等の実施 継: 障がい児やその家族への相談支援体制の整備	
				(参考)「児童に対する福祉」に関する市民満足度	14.3%	17.0%	15.4%	20.0%	3	ひとり親家庭の自立生活への支援	継: 母子・父子自立支援員による相談・情報提供の実施 継: ハローワークとの連携による就労支援の実施 充: ひとり親家庭自立支援給付金事業等自立に向けた支援の強化	
	12	子育て支援の充実	多様な子育て支援サービスの確保・提供や、地域全体で子どもを支える取り組みにより、子育てと仕事が両立でき、安心して子どもを産み育てられる環境が整っています。	合計特殊出生率	1.11	1.60	1.14	1.63	1	子どもを産み育てやすい環境の充実	継: 妊婦や乳幼児に対する健康相談・健康診査の充実 継: 母子保健事業の実施	
				乳幼児健康診査受診率	95.6%	96.0%	95.1%	96.5%	2	切れ目のない子育て支援の充実	充: 相談体制の充実 充: 地域子育て支援拠点事業の充実 継: 地域における見守りや子育て支援の取り組みへの支援	
				保育所待機児童数	0人	0人	13人	0人	3	多様な保育サービスの充実	継: 延長保育、一時預かり事業等の実施 充: ファミリー・サポート・センター事業の充実 充: 保育定員の拡充 充: 認定こども園への移行推進 充: 病児保育の充実	
				(参考)「子育てのしやすさ」に関する市民満足度	19.2%	22.0%	19.1%	25.0%	4	子育て世帯の経済的負担の軽減	継: 児童手当の支給 継: 児童扶養手当の支給 継: 養育医療給付事業の実施 継: ひとり親家庭医療費助成事業の実施 継: 子ども医療費助成事業の実施	
									5	仕事と子育ての両立に向けた支援	充: ワーク・ライフ・バランスの推進 継: 育児休暇制度の取得促進	
	ふるさとへの誇りを高め未来を拓く教育の推進	13	学校教育の充実	学校と家庭・地域が連携したふるさとのつながりによる「学びの里」が構築され、子ども一人ひとりの教育ニーズに応じ、知・徳・体の調和がとれた「生きる力」を育むとともに、学びの連続性を意識した教育が実践され、安全・安心な環境の中で、特色ある学校運営が行われています。	地域人材の活用回数	299回	330回	399回	360回	1	知・徳・体の調和がとれた「生きる力」の育成	充: 確かな学力の定着 充: 豊かな情操と道徳心の定着 充: 健やかな身体づくりの充実 継: 人権尊重の精神の涵養 充: 支援教育の充実 充: 食に関する指導の充実 継: 子どもの読書活動の推進
					不登校児童・生徒数	119人	110人	136人	100人	2	「ふるさと河内長野」に誇りを持ち、世界へも目を向ける人材の育成	充: 伝統・文化等に関する教育の推進 充: 英語教育やICT環境等を活用した特色ある活動の充実
(参考)「小中学校の教育環境」に関する市民満足度					17.5%	20.0%	16.9%	22.5%	3	幼児期から青少年期まで、継続的な教育の取り組みの推進	充: 保幼こ小連携による幼児期の教育の充実 充: 豊かな未来を築く力を育む小中一貫性のある指導体制の充実	
									4	地域総ぐるみで子どもを守り育む教育の実現	充: 家庭・地域との協働による学校づくりの推進	
									5	安全・安心で、質の高い教育環境の維持・充実	充: 安全・安心な学校施設の維持・充実 充: 学校教育を支える教育環境の維持・充実	
14		青少年の健全育成の推進	人と人とのつながりを活かした協働のまちづくりを展開し、家庭の教育力、地域の教育力を含めた地域力を高め、地域総ぐるみで子どもたちを守り育む地域社会が実現しています。	少年犯罪者数	1,012人	1,000人	422人	400人	1	青少年の健全な成長を支援する体制づくり	継: 青少年健全育成に関わる市民や団体等との協働の推進 継: 青少年の非行防止の推進 継: ひきこもり、ニートなどに対する支援の推進 充: 青少年リーダーの養成、青少年地域活動への支援の充実	
				青少年講座参加者数	1,118人	1,300人	1,359人	1,500人	2	子どもたちの放課後の育ちの保障	充: 放課後児童会の適正な運営 充: 放課後子ども教室などの充実	
				青少年リーダー数	21人	40人	26人	50人				
				(参考)「青少年の健全な育成」に関する市民満足度	11.4%	15.5%	12.8%	19.0%				

政策	施策		10年後のめざす姿	住みよさ指標				主な取り組み		取り組み内容	
				まちづくり指標(案)	基準値	中間値		目標値	No		名称
	実績(H27)	目標(R2)			実績(R1)	目標(R7)					
生涯にわたる多様な学びの推進	15	生涯学習の推進	多様な学習機会が確保され、いくつになっても、誰もが学ぶことができ、市民が充実した生活を送っており、学びの成果が地域課題の解決やまちづくりに活かされています。	市民交流センター利用人数	-	-	83,256人	123,000人	1	学習機会の提供及び学習活動支援の充実	継:「市民大学くろまる塾」への参加促進と適正な運営 継:市民の自主的な学びの場や機会の充実 継:生涯学習情報の発信強化 継:生涯学習相談体制の整備 継:生涯学習を推進する人材の育成 継:学びの成果を地域に活かす仕組みづくり
				「市民大学くろまる塾」塾生数	1,310人	1,500人	1,613人	1,700人	2	社会教育の推進	充:今日の社会的な課題の解決に向けた講座の充実 充:子どもの体験活動機会の充実 充:学社連携・融合事業の推進
				社会教育事業延べ参加者数	15,457人	16,200人	7,964人	16,500人	3	家庭の教育力の向上	充:保護者や地域住民を対象とした学習機会の提供 充:市民や子育て関連機関等との連携による事業の展開 充:市民主体による家庭の教育力向上のための取り組みへの支援
				図書館利用者数	621,046人	622,000人	563,008人	623,000人	4	図書館の充実	継:子どもたちや市民の読書活動の推進 充:課題解決型図書館に対応した情報発信や資料提供、各種講座の実施 充:公民館図書室・自動車文庫の資料整備など読書環境の拡充 充:ICTを活用した図書館サービスの充実 充:地域や市民との連携による読書活動の推進
				(参考)「各種講座や施設など生涯学習の環境」に関する市民満足度	15.4%	17.0%	14.2%	18.5%			
	16	歴史文化遺産の保存・活用及び文化芸術の振興	市固有の文化が多様な担い手によって保存・活用されるとともに、郷土に愛着をもった市民が歴史と文化あふれる環境のもとで質の高い生活を送っています。また、豊かな文化芸術に触れ、多様で自主的な文化芸術活動が活発に行われています。	文化振興事業延べ参加者数	57,030人	58,500人	40,192人	60,000人	1	歴史文化遺産の保存・活用	充:歴史文化遺産の調査・研究の推進 継:歴史文化遺産の保存の推進 充:活用を通じた地域への愛着と誇りの醸成 充:保全・活用の担い手の育成・確保 新:継承を通じた豊かな地域社会の構築 継:公開、展示、講座、図書刊行等を通じた情報の発信
				指定登録文化財数	192件	197件	198件	202件	2	文化・芸術の振興	継:文化会館における文化芸術活動の充実 充:文化芸術活動を行う機会の提供・支援 充:文化的な伝統(古典)の普及・啓発 充:教育現場や地域での芸術普及活動の推進 継:文化会館の適正な運営、維持・管理
				滝畑ふるさと文化財の森センター(展示施設)の入館者数	4,910人	5,000人	2,513人	5,250人			
				ふるさと歴史学習館でのアンケート調査による認識度・印象度把握	-	-	-	80点			
				ふるさと歴史学習館主催事業参加者数	-	-	-	1,100人			
				(参考)ふるさと歴史学習館主催事業の入館者数	7,632人	11,500人	5,314人	6,550人			
				文化会館の入場者数	210,285人	221,000人	162,245人	230,000人			
				(参考)「歴史文化遺産の保存・活用」に関する市民満足度	17.6%	22.6%	25.2%	27.6%			
	17	生涯スポーツ活動の振興	スポーツに取り組む環境づくりが進み、誰もがスポーツに親しむことができ、地域コミュニティ形成や、市民の健康づくりにつながっています。	スポーツ施設利用率	41.6%	50.0%	36.5%	55.0%	1	生涯スポーツ活動の振興	継:スポーツ振興組織の育成・支援 充:スポーツイベント・スポーツ教室の充実 充:スポーツ大会等の開催・誘致 継:競技スポーツ活動の推進 継:指導者の養成、確保 継:高齢者の運動の機会の提供
				学校開放事業利用者数	375,041人	380,000人	207,681人	400,000人	2	スポーツ施設の充実	継:学校スポーツ施設等の有効活用 充:スポーツ施設の整備・充実 継:市民ニーズにあった施設運営
				市民スポーツ大会参加者数	7,171人	7,500人	6,881人	8,000人			
				(参考)「スポーツ施設や活動などの環境」に関する市民満足度	12.6%	20.0%	15.0%	30.0%			